

## 安全データシート (SDS)

## 1. 製品及び会社情報

製品名： タセトクリーナー W2 (エアゾール)  
 会社名： 株式会社 タセト  
 住所： 〒251-0014 神奈川県藤沢市宮前 100-1  
 担当部門： 化学品技術部  
 電話番号： 0466-29-5638  
 FAX番号： 0466-29-5630  
 緊急連絡先及び電話番号： 同上  
 推奨用途及び使用上の制限： 水系洗浄剤

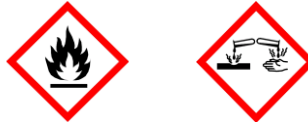
## 2. 危険有害性の要約

## GHS分類

物理化学的危険性：	エアゾール	区分2
	* 記載のない物理化学的危険性は、分類対象外から分類できない。	
健康有害性：	急性毒性(経口)	区分外
	急性毒性(経皮)	分類できない
	急性毒性(吸入：気体)	分類できない
	急性毒性(吸入：蒸気)	分類できない
	急性毒性(吸入：粉じん、ミスト)	分類できない
	皮膚腐食性及び皮膚刺激性	区分1
	眼に対する重篤な損傷性 又は眼刺激性	区分1
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	分類できない
	生殖毒性・授乳に対する 又は授乳を介した影響	分類できない
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	分類できない
	特定標的臓器毒性(反復ばく露)	分類できない
環境有害性：	吸引性呼吸器有害性	区分外
	水生環境有害性(急性)	分類できない
	水生環境有害性(長期間)	分類できない
	オゾン層への有害性	分類できない

## ラベル要素

絵表示：



注意喚起語：

危険

危険有害性情報：

可燃性又は引火性の高いエアゾール  
 高圧容器：熱すると破裂のおそれ  
 重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷  
 重篤な眼の損傷

注意書き： 【安全対策】

熱／火花／裸火／高温のもののような着火源から遠ざけること。－禁煙  
 裸火又は他の着火源に噴霧しないこと。  
 使用後を含め、穴を開けたり燃やしたりしないこと。  
 ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。  
 取扱い後は手をよく洗うこと。

屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。

必要なとき以外は、環境への放出を避けること。

保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

【応急措置】

飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。

皮膚(又は髪)に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。

皮膚を流水／シャワーで洗うこと。

汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。直ちに医師に連絡すること。

眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。

漏出物を回収すること。

【保管】 子供の手の届かないところに置くこと。

容器を密閉して、涼しく換気の良い場所で保管すること。

日光から遮断し、40℃以上の温度にばく露しないこと。

【廃棄】 内容物/容器を国際/国/都道府県/市町村の規則に従って産業廃棄物として処理すること。

### 3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別:

混合物

成分及び含有量:

化学名(成分名)	濃度(wt%)	CAS No.	官報公示整理番号 (化審法・安衛法)	PRTR法 <sup>1)</sup>
水	70~80	7732-18-5	—	非該当
グリコールエーテル類	1~10	非公開	非公開	非該当
炭酸塩類	1~5	非公開	非公開	非該当
キレート剤	1~5	非公開	非公開	非該当
界面活性剤A	<3	非公開	非公開	非該当
界面活性剤B	<3	非公開	非公開	非該当
ケイ酸塩類	<3	非公開	非公開	非該当
ジエタノールアミン <sup>II)</sup>	<1	111-42-2	(2)-302 (2)-354	非該当
防錆剤	<1	非公開	非公開	非該当
噴射剤 LPG: プロパン	1~5	74-98-6	(2)-3	非該当
: ブタン <sup>II)</sup>	5~10	75-28-5、 106-97-8	(2)-4	非該当

危険有害成分:

I) 化学物質排出把握管理促進法

非該当

II) 労働安全衛生法 57条の2

通知対象物質: ジエタノールアミン(政令番号219)  
ブタン(政令番号482)

### 4. 応急措置

吸入した場合: 空気の新鮮な場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。必要に応じて医師の診断、手当てを受けること。

皮膚に付着した場合: 皮膚を速やかに洗浄すること。  
多量の水と石鹼又はシャワーで洗うこと。  
汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。  
皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。

眼に入った場合: こすらずに、水で数分間注意深く洗い、医師の手当てを受ける。  
コンタクトレンズを着用し容易に外せる場合は外し、洗浄を続ける。  
眼の刺激が持続する場合、医師の診断、手当てを受けること。

飲み込んだ場合: 水でよく口を洗浄すること。

必要に応じて医師の診断、手当てを受けること。

応急措置をする者の保護: 救急者は、保護具を着用する(「8. ばく露防止及び保護措置」の注意事項を参照)。

### 5. 火災時の措置

消火剤: 霧状水、粉末消火剤、泡消火剤、二酸化炭素、乾燥砂

使ってはならない消火剤: 情報なし

特有の消火方法: 本品自体は不燃性。火災にさらされた時には、大量の水で消火する。  
一般的な消火方法でよく、限定しない。

周辺火災の場合は容器を安全な場所へ移動する。  
消火作業は風上から行い、場合によっては呼吸保護具を着用する。

消火を行う者の保護: 防火、防煙、耐熱に対応できる保護具を着用する。

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、 保護具及び緊急時措置:	作業者は適切な保護具(「8. ばく露防止及び保護措置」の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。 風上から作業し、漏出した場所の周囲には、関係者以外の人の立ち入りを禁止する。 密閉された場所は換気する。
環境に対する注意事項:	河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。 環境中に放出してはならない。
封じ込め及び浄化の方法・機材:	危険でなければ漏れを止める。 漏洩物を掃き集めて空容器に回収する。 少量の場合、漏出液はおがくず、ウエス、砂等に吸収させて処理する。 多量の場合、盛り土で囲って流出を防止し、バキューム車等で回収する。
二次災害の防止策:	全ての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い 技術的対策:	「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
局所排気・全体換気:	「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行う。
安全取扱注意事項:	吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように適切な保護具を着用する。 屋外又は換気の良い場所でのみ使用する。 容器を転倒させたり、落下させたり、衝撃を加えたり、又は引きずる等の粗暴な取扱いをしない。
接触回避:	情報なし
衛生対策:	取り扱い後は手、顔等をよく洗い、うがいをする。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。
保管 安全な保管条件:	熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。-禁煙。 容器を密閉して換気の良い場所で保管する。 雨水・直射日光を避け、錆の発生しやすい所に置かない。 容器に圧力をかけない。圧力をかけると破裂する事がある。
安全な容器包装材料:	情報なし

## 8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度:	設定されていない
許容濃度(ばく露限界値)	
日本産業衛生学会(2015年版):	設定されていない
ACGIH(2015年版):	TLV-TWA 1 mg/m <sup>3</sup> ジェタノールアミン
設備対策:	この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。 室内での取り扱いの場合は、発散源の密閉化又は局所排気装置を設置すること。 空気中の濃度を推奨された許容濃度(ばく露限度)以下に保つために、排気用の換気を行うこと。
保護具 呼吸用保護具:	必要ならば有機溶剤用の防毒マスクを用いること。
手の保護具:	保護手袋、必要に応じて耐溶剤性手袋、ビニール手袋等を着用すること。
眼の保護具:	適切な眼の保護具を着用すること。 保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)
皮膚及び身体の保護具:	長袖作業衣、前掛け

## 9. 物理的及び化学的性質

物理的状態、形状、色など:	無色透明液体
臭い:	わずかな溶剤臭
pH:	11~12
融点・凝固点:	-9°C
沸点、初留点及び沸騰範囲:	100°C(水としての推定値)
引火点:	水溶液であり、引火しない。
燃焼又は爆発範囲:	なし
蒸気圧:	データなし
比重(密度):	1.04
溶解度:	水に易溶
n-オクタノール/水分配係数:	データなし

自然発火温度(発火点):	なし	
分解温度:	データなし	
「噴射剤」LPG	プロパン	ブタン
融点・凝固点:	-190°C	-138 ~ -160°C
沸点、初留点及び沸騰範囲:	-42°C	-0.5 ~ -11.7°C
引火点:	-104°C	-56 ~ -60°C
燃焼又は爆発範囲:	2.1 ~ 9.5 vol%	1.8 ~ 8.4 vol%
蒸気密度(空気 = 1):	1.6	2.07

## 10. 安定性及び反応性

安定性:	通常取扱条件において安定である。
危険有害反応可能性:	酸性物質と接触すると中和熱によって発熱する。
避けるべき条件:	情報なし
混触危険物質:	酸性物質
危険有害な分解生成物:	情報なし

## 11. 有害性情報

急性毒性(経口):	急性毒性推定値(ATEmix) > 5,000 mg/kgのため、区分外とした。
急性毒性(経皮):	有用な情報がなく分類できない。
急性毒性(吸入:気体):	プロパン: ラット LC <sub>50</sub> 277,374 ppm/4h ACGIH (7th, 2001) ブタン : モルモット LC <sub>50</sub> > 55,000 ppm/2h ACGIH (7th, 2001) (換算値: > 38,890 ppm/4h)
急性毒性(吸入:蒸気):	有用な情報がなく分類できない。
急性毒性(吸入:粉じん、ミスト):	有用な情報がなく分類できない。
皮膚腐食性及び皮膚刺激性:	炭酸塩類: ウサギのDraize試験で、刺激性あり(irritating)の結果により区分2に該当する。 キレート剤: 原料情報より、『重篤な皮膚の薬傷』との記載から、区分1に該当する。 ケイ酸塩類: ウサギの皮膚に水で湿らせた本物質を24時間の半閉塞適用した試験で、腐食性ありの結果により区分1に該当する。 区分1に分類される成分が1.0%以上含まれているため、区分1とした。 炭酸塩類: ウサギのDraize試験で、刺激性あり(irritating)の結果により区分2Aに該当する。 キレート剤: 原料情報より、『重篤な眼の損傷』との記載から、区分1に該当する。 ケイ酸塩類: ウサギの眼に適用したin vitro試験(GLP準拠)で、腐食性ありの結果により、区分1に該当する。 区分1に分類される成分が1.0%以上含まれているため、区分1とした。
眼に対する重篤な損傷性 又は眼刺激性:	有用な情報がなく分類できない。
呼吸器感作性:	有用な情報がなく分類できない。
皮膚感作性:	有用な情報がなく分類できない。
生殖細胞変異原性:	有用な情報がなく分類できない。
発がん性:	ジエタノールアミン: IARCでグループ2Bに分類されている(IARC (2011)) ことに基づき、区分2に該当する。なお、ラットを用いた103週間経皮投与試験で発がん性の証拠は見出されなかったが、マウスを用いた103週間経皮投与試験では、雌雄で肝細胞腫瘍の発生率の増加、雄で尿管腫瘍の発生率の増加が認められ、マウスでは明らかな発がん性の証拠が得られたと結論されている(NTP TR 478 (1999))。 区分2に分類される成分が0.1%以上1.0%未満で、毒性において未知の成分が含まれているため、分類できないとした。
生殖毒性:	ジエタノールアミン: ラットの妊娠6~19日に経口投与による発生毒性試験において、125又は200 mg/kg以上の用量で、体重増加抑制、摂餌量の低下、腎臓重量の増加等母動物の一般毒性が見られた用量で、生殖に対する影響として、着床後死亡率の増加及び出生後早期死亡の増加が報告されている(NTP TER 96001 (1999))ことから、区分2に該当する。 区分2に分類される成分が0.1%以上3.0%未満で、毒性において未知の成分が含まれているため、分類できないとした。
特定標的臓器毒性(単回ばく露):	プロパン: ACGIH (7th, 2001)のヒトへの影響として麻酔作用を示すとの記述から、区分3(麻酔作用)に該当する。 ブタン: ACGIH (7th, 2001)、DFGOT vol.20 (2003)、PATTY (4th, 1994)及び産衛学会勧告(1993)のヒトにおいて高濃度吸入で麻酔作用又は中枢神経系抑制を示すとの記述から、麻酔作用があると考え、区分3(麻酔作用)に該当する。 区分3(麻酔作用)に分類される成分は1.0%以上20%未満含まれている。

特定標的臓器毒性(反復ばく露): 有用な情報がなく分類できない。  
 吸引性呼吸器有害性: エアゾールはミストの状態では噴霧されるので、通常は該当しないため、区分外とした。

## 12. 環境影響情報

生態毒性: 水生環境有害性 (急性) 有用な情報がなく分類できない。  
 水生環境有害性 (長期間) 有用な情報がなく分類できない。  
 残留性・分解性: データなし  
 生体蓄積性: データなし  
 土壌中の移動性: データなし  
 オゾン層への有害性: 有用な情報がなく分類できない。

## 13. 廃棄上の注意

残余廃棄物: 廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従う。  
 都道府県知事等の許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。  
 廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。  
 汚染容器及び包装: 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。  
 廃容器の取り扱いの際、空容器に圧力を加えると破裂することがある。  
 空容器は溶接、加熱、穴開け又は切断を行うと、爆発を伴って残留物が発火することがある。  
 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去する。

## 14. 輸送上の注意

### 国際規制

海上規制情報: IMOの規制に従う。  
 航空規制情報: ICAO/IATAの規制に従う。  
 UN No.(国連番号): 1950  
 Proper Shipping Name(品名): Aerosols (エアゾール)  
 Class(国連分類): 2.1  
 Packing Group(容器等級): ー

### 国内規制

陸上規制情報: 消防法ほか法令の規制に従う。  
 海上規制情報: 船舶安全法の規定に従う。  
 航空規制情報: 航空法の規定に従う。  
 緊急時応急措置指針番号: 126  
 特別の安全対策: 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。  
 容器が著しく摩擦又は動揺を起こさないように運搬する。  
 重量物を上積みしない。

## 15. 適用法令

労働安全衛生法: 表示対象物質: ブタン  
 (法第57条、施行令第18条第1号別表第9)  
 通知対象物質: ジエタノールアミン、ブタン  
 (法第57条の2、施行令第18条の2別表第9)  
 危険物: 可燃性ガス(施行令 別表第1)  
 有機溶剤中毒予防規則: 非該当  
 特定化学物質障害予防規則: 非該当  
 消防法: 非該当  
 毒物及び劇物取締法: 非該当  
 化学物質排出把握管理促進法:  
 (PRTR法) 非該当  
 船舶安全法: 高圧ガス、エアゾール  
 (危険物船舶運送及び貯蔵規則 第3条 告示別表第1)  
 航空法: 高圧ガス、エアゾール  
 (航空法施行規則 第194条 告示別表第1)  
 水質汚濁防止法により、有機物負荷排水を直接環境へ放出することは規制されている。  
 下水、河川、海、土壌中に直接廃棄することはできない。

## 16. その他の情報

参考文献等：

- 1) 中央労働災害防止協会「GHSモデルMSDS情報」
  - 2) 独立行政法人 製品評価技術機構(NITE) GHS分類結果
  - 3) 日本塗料工業会「GHS対応MSDS・ラベル作成ガイドブック [混合物用(塗料用)]」
  - 4) JIS Z 7252:2014「GHSに基づく化学品の分類方法」
  - 5) JIS Z 7253:2012「GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル, 作業場内の表示及び安全データシート(SDS)」
  - 6) 許容濃度の勧告(2015)、日本産業衛生学会
  - 7) Thresholds limit values for chemical substances and physical agents and biological exposure indices、ACGIH(2015)
  - 8) (株)タセト 社内資料(原材料SDS)
- 

### 記載内容の取扱い

本データシートは、製品の安全性に関する要求事項を記載しています。

本データシートは、製品の安全な取扱いを確保するための「参考情報」として、作成時点で当社の有する情報を取扱事業者に提供するものです。取扱事業者は、この情報に基づいて、自らの責任において、適切な処置を講ずることが必要です。

従って、本データシートは、製品の安全を保障するものではなく、本データシートには記載されていない、当社が知見を有さない危険性及び有害性のある可能性があります。